

## アーサー・ビナードの作品について — 新たな発見と気づき —

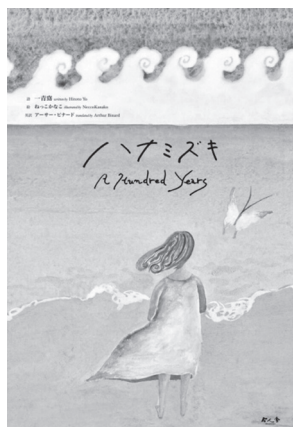
林 伸一

### 1. はじめに

2023年8月11日（山の日）に「アーサー・ビナードと共に朗読会+歌」が小郡地域交流センターで実施された。朗読テキストとしては、アーサー・ビナード（以下、ビナード氏と略記）による翻訳作品の絵本『ハナミズキ』『なんなんなん』、エッセー集『日本語ほこりほこり』などが用いられた。

本稿では、ビナード氏の作品内容について考察し、アンケートの自由記述などから、新たな発見と気づきについて論じたい。また、これまでのビナード氏との朗読会についてまとめておきたい。

### 2. 『ハナミズキ』



『ハナミズキ』は、一青窈が作詞し、マシコタツロウ作曲、武部聡志編曲で、2004年2月11日にコロムビアミュージックエンタテインメント（現・日本コロムビア）より発売された。初回盤は、モノクロジャケット仕様であった。

一青窈自身が歌っている『ハナミズキ』であるが、それをビナード氏が英訳して、ねっこかなこ氏の絵で2022年10月20日に絵本になっている。ハナミズキは、漢字で書けば「花水木」であるが、英語で言えば、<dogwood>で「犬の木」という意味になってしまう。そこで、ビナード氏は<A Hundred Years>（百年）というタイトルをつけて、今人舎から出版した。

『ハナミズキ』は5拍語であるが、<A Hundred Years>も5音節になることから英語で歌うのにちょうどいいとビナード氏は言っている。

ビナード氏は<A Hundred Years>の英訳をそのまま歌えるという。実際に8月11日に山口の小郡地域交流センターで、脇淵陽子さんのピアノ伴奏で、全部英語で歌ってくれた。

そもそも謎の多い歌詞である。「果てない夢がちゃんと終わりますように」とあるけれど「果てがない夢」ならば、「終り」はないのでは？という疑問が沸く。同じように「果てない波がちゃんと止まりますように」とあるが、寄せては返す海の「果てがない波」ならば、止まらないのでは？という疑問も出てくる。

さらに「君と好きな人が百年続きますように」という歌詞から『ハナミズキ』は、よく結婚式で歌われるというのだが、「君」と「好きな人」が「僕」（自分）とは別にいるとしたら、三角関係の場合も考えられる。

『ハナミズキ』は、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロの時、ニューヨークにいた友人からのメールをきっかけに、一青窈が一週間ほど涙ながらに書いた詩とされる。テレビに映る悲劇は、彼女の想いをA4用紙3枚程に溢れさせた。書いた「詩」を歌うための「詞」に書き換えることになる。

作詞当時、「テロ」「散弾銃」「ミサイル」といった生々しい言葉があり、一青窈も「挑戦的な詞」であったと振り返っている。テロに対する自分の想いを全部吐き出してから、その詞を削って「君と好きな人が百年続きますように」の言葉にたどり着いたとのこと。

ビナード氏も詩人として、「詩は、できるだけ無駄な言葉を削って作っていくもの」としている。

一青窈はこの歌に、テロに対する怒りの連鎖が「とまりますように」と、祈りを込めて作ったようだ。2001年9.11の起こったニューヨークは水辺の都市だったため、事件当時「客船タイタニックの事故」を連想したようだ。多くの人が逃げ惑う光景は、タイタニックでの事故と重なって見えたのであろう。それが、「どうぞゆきなさいお先にゆきなさい」という歌詞になったと思われる。

船が沈みゆく中、救命ボートにあともう少しで乗れるという時に、「自分と好きな人が助かる」よりも「好きな人とその人が好きな人」を助けたいという想いをみんなが持てれば、もっといろいろなことが変わるのではないかと感じ、一青窈はそれを歌詞に託した。

「僕の我慢がいつか実を結び、果てない波がちゃんと終わりますように」と歌っている「果てない波」とは、いったい何なのか。それは、「テロ」であり「戦争」であり、「津波」であり「災害」なのではないか？作詞の際に、作者によって削り落された言葉を聴く側は、ジグゾーパズルのように丁寧に再構成してみる必要があるのだろう。

同じように「果てない夢がちゃんと終わりますように」の「果てない夢」とは、何なのか？それは、「平和」であり、「安心」であり、「復興」であり、「幸せ」なのかもしれないが、それが「ちゃんと終わりますように」とは、どういうことなのだろうか？さらに疑問が沸く。「終わる」と言っても、「期待された結果が得られないまま、それが最後の状態になる」場合、つまり「途中であっても終了する」場合と「納得し満足する形で完了する、完結する」場合がある。

9.11が起こったあの夏、複雑な思いを抱え、多くの人が死んでいった。

『ハナミズキ』には、「君と好きな人」を優先的に船に乗せてあげられるような、未来への希望を繋げていく気持ちがあれば、きっと世界からテロや戦争は無くなる。そんな思いが込められているように思われる。一言一言、想いを込めて歌う一青窈の平和への気持ちが痛いほど伝わってくる。

大切な人を想い、その人の幸せを願い、それに必要不可欠な平和を祈念する歌として、聴いてみたい。関東大震災から「百年」の2023年、もう一度震災を考えるためにも、ウクライナ戦争の行く末を考えるためにも、イスラエル対ハマス戦争を考えるためにも『ハナミズキ』の意味する「百年」を考えてみたい。百歳老人が珍しくなくなった現代において「百年前」と「百年後」を考えることが、等身大の現実となってきた。ロシア対ウクライナ戦争もイスラエル対ハマス戦争も「百年後」までも禍根を残すことになるであろう。

難解な『ハナミズキ』も歌手の解釈で分かりやすくなったり、英訳や絵描きさんの解釈によっても、別の解釈も成り立つであろう。一曲一冊の絵本であるが、一曲一解釈とは限らず、様々な解釈が可能であることを味わってみたい。下の写真は、8月11日にビナード氏が「ハナミズキ」の英訳を朗読し、松崎雅子さんが日本語で脇淵陽子さんのピアノ伴奏で歌っているところ。(注1)



次に2023年8月11日の参加者アンケートの自由記述を見ておきたい。

### 3. ビナード氏の歌と話と「ハナミズキ」に関する参加者アンケートの自由記述 (2023年8月11日)

- \*なぜか20年前ごろからハナミズキの花が好きになり、庭に植えたり、その図柄の着物まで買ってしまった。「ハナミズキ」の歌は知っていたが、どうせ恋愛ものだろうとあまり興味はなかった。しかし、今回の『ハナミズキ』の絵本に違和感を覚えた。そこで、ハナミズキの花言葉を調べ、謎が解けた。花言葉「私の思いを受けとめてください」「永続性」。花の形は十字架。(女性・70代)
- \*3回目の参加になりますが、アーサーさんのお話を直接聞くことができる貴重な時間になっています。元気と力を大いにいただいています。今必要な事、一人一人が生活の中から言葉をつむぐこと。本当にありがとうございました。(男性・60代)
- \*アーサー・ビナードさんの歌、平和な心になりました。英語の「ハナミズキ」素敵でした。日本語も日本人より上手です。楽しい会でした。(女性・70代)
- \*アーサー・ビナードさんの生の声が聞かれて、有意義で良かった。伝わってくるものがあった。新たな発見や気づきがあった。(男性・60代)

上記(女性・70代)の花言葉「私の思いを受けとめてください」「永続性」「返礼」については、当日スクリーンに映して紹介した。

白のハナミズキの「返礼」の花言葉は、桜を日本からアメリカに贈った返礼として、アメリカから日本へ贈られたことが由来とされている。戦争のため、贈られたハナミズキはみな枯れたり行方不明になったとされていた。最近になって東京の「都立園芸高校」内に原木が1本残っていたことが確認され、話題になっている。「都立園芸高校」のホーム・ページには、次のように写真と共に詳しく記されている。



#### <百年のハナミズキ>

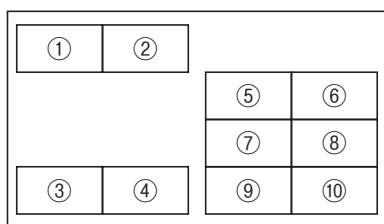
1912年、当時の東京市長尾崎行雄氏から3,000本のサクラがワシントンに送られ、その返礼として1915年、タフトアメリカ大統領から送られてきた40本のハナミズキのうちの1本です。アメリカに送ったサクラの苗木づくりを任された熊谷八十三(くまがいやそぞう)が、本校初代校長であったことから、ここに植樹されました。

40本のうち現存するハナミズキは本校の1本の

みで、2015年4月10日に100年祭が実施されました。

またこれに合わせ、日本郵便とアメリカ郵政庁から記念切手が同時発売されました。

以下「米国からのハナミズキ寄贈100周年」の発行の告知より。



- ①サクラと国会議事堂
- ②ハナミズキと憲政記念館時計塔
- ③サクラとリンカーン記念館(※)米国郵政公社(USPS)によるデザインの手紙
- ④ハナミズキと米国連邦議会議事堂(※)USPSによるデザイン
- ⑤⑥白いハナミズキ ⑦⑧サクラ ⑨⑩紅(あか)いハナミズキ

切手シートの余白には、日米の国旗、ハナミズキの花、ハナミズキの実、サクラ等が描かれている。



(以上、[https://www.post.japanpost.jp/kitte\\_hagaki/stamp/tokusyu/2015](https://www.post.japanpost.jp/kitte_hagaki/stamp/tokusyu/2015)より)

本来、ハナミズキの寿命は80年ぐらいといわれています。本校のハナミズキは100年を超えているので、超老木といえます。毎年5月ごろ開花するのですが、この写真のように満開に咲かせると、養分を開花に奪われすぎて、枯死する確率が増します。よって、蕾の時期にできるだけその蕾を摘んで、樹勢の維持に努めています。ですので、5月の開花時期にもし見学で訪れた時には、花数が少なくても、「今年も頑張って長生きしてね」と、あたたかく見守っててください。(注2)



#### <日米友好 スターライト ハナミズキ>

2015年4月10日「ハナミズキ百年祭」記念式典がおこなわれました。キャロライン・ケネディ駐日米大使が臨席して、日米友好の記念樹「ハナミズキ ‘スターライト’」を御手植えされました。※スターライト→ヤマボウシとナタリーハナミズキの種間交雑品種で、花は白色。開花期は4月下旬から5月中旬。秋に蘇生開花しやすい。枝は太く

樹形は直立性で病虫害抵抗性は高い。

開花はじめは直径約5cmの上品な薄緑色、その後、約8cm前後の大きさになり、清楚な白色となります。(東京都立園芸高等学校 〒158-0081 東京都世田谷区深沢5-38-1 電話：03-3705-2154)

(以上、<https://www.metro.ed.jp/engei-h/pages/2020/04/post-5.html>より引用)

赤のハナミズキの「私の想いを受けてください」は好きな女性にハナミズキを贈ったことが由来で、ビクトリア朝時代(19世紀後半)、独身の男性が好きな女性にハナミズキの木を贈ることが流行

したと言われている。興味がなければ女性は木を返し、好きな相手ならそのまま木を持っていくとのこと。ピンクの「永続性」は、ハナミズキがゆっくり育つことが由来と言われている。

<ハナミズキの花言葉と由来 | 花言葉.net (hanakotoba.net) 参照>

#### 4. 『なんなんなん?』



マック・バーネット作『なんなんなん?』は、カーソン・エリスが絵を描いている。原題は、<What is love?>であるが、翻訳者のビナード氏が『なんなんなん?』という邦題をつけた。

「なんなんなんで、そんなタイトルにしたんだ?」とビナード氏に聞いたところ、「What is love?のLOVE (愛) なんて、何のことかわからないだろう?」との答えが返ってきた。「I LOVE YOU.なんて相手のことがよくわからないから、謎だらけの相手をもっと知りたいと言っているだけなんだ」とのこと。「もし、もう知りたくなくなったとしたら、LOVE (愛) は消える」と言う。本の帯にも「君が世界で一番LOVEしているのは、誰ですか? LOVEの謎から物語が始まります」と書かれている。

『なんなんなん?』の出版社の小学館は、対象年齢を3歳~5歳以上としている。しかし、大人でもいろいろと考えさせられる内容の本である。というのは、主人公の少年が旅に出て、出会う人ごとに「なんなんなんのために生きているの?」と聞いて回るからである。ここでは「反復質問物語」と名付けておきたい。内観法という仏教の修行法の中に「反復質問法」があるのと一脈通ずるところがある。(注3)

「何のために生きているのか?」は、立派な哲学的問いである。

大工さんは「家をたてるため」と答える。つまり、仕事のために生きているという。生きるために仕事をするのではなく、労働するために生きているという訳である。

さらに重ねて「もし、間違えて指をたたっちゃったら?」と聞くと、大工さんは「それでもやるんだな」と答える。絵本には、両方の親指をたたいてしまって、包帯をしている大工さんの痛々しい姿が、描かれている。工作中的の労務災害も気にしないで、大工さんは家を建て続けるのであろう。



現実には、人手不足で、一人でなんなんなん分もの仕事をして、過労死してしまうかもしれない。そんなことになったら本末転倒ではなかろうか。本末転倒というのは、本来「生きるために働いていたはずが、働くために生きている」状態になっていて、本人が、それになんなんなんの矛盾も感じていないからである。まわりも「さすが職人魂、職人根性のある人だ」などと称賛するかもしれない。

また、同絵本では、劇場で歌を歌っている俳優さんに「なんなんなんのために生きているのでしょうか?」と聞いてみたところ「拍手ですよ! お客様のぱちぱちぱちぱち拍手のために!」との答えが返ってくる。さらに「お客様がブラボーと花を投げてくれたら最高!」と俳優さんは付け加えた。

これも俳優や歌手などのエンターテイナーは、お金のために働いているのではなく、観客を喜ばせ、感動させることによって、観る側から賞賛されることで報われるということを意味している。

これも現実問題に照らし合わせて考えてみると、宝塚歌劇団の劇団員の自殺を契機に「集団リンチのような目にあっていた」劇団員たちの実情が明るみに出たという問題がある。公演回数が多く、長時間に及ぶ練習と準備や上級生からのいじめで「精神的に崩壊している」と本人が、自殺する前に母

親に訴えていたという。(『週刊文春』報道参照)

小嶋(2015)は、『タカラヅカ式 美しい人の作法の基本』の中で「宝塚音楽学校への入学準備は、地獄のようなガイダンスだけではありません。総仕上げとして自衛隊伊丹駐屯地の教官を講師とする集団訓練があります。ここでは、10人一組の4グループに分かれ、整列や行進の仕方を練習します」と述べている。厳しい規則や礼儀作法として「人前で歯を見せて大声で笑ってはいけない」「人前で泣いてはいけない」など喜怒哀楽を人前で自由に表出できないような縛りもあるとのこと。「軍隊のようだ」と評される厳しいしつけ教育は、実態を伴っているようだ。同書の帯には「作法が変われば人生が輝く」とあるが、「作法が行き過ぎれば人生がなくなる」と皮肉られても仕方ないであろう。

小嶋(2015)は、「いつもスイッチ“オン”の状態でい続けることはできませんので、リラックスの時間をもつことがほんとうに大切なのはいうまでもありません」と述べ、オン・オフの切り替えがうまくいかない時は「あえてひとりの時間をもつ」ことを提案しているが、そのような余裕はなかった。

宝塚歌劇団の問題と同様に、ジャニーズ事務所の性加害問題もエンターテインメントの隠蔽された闇の部分で、被害者の訴えは、表舞台には長い間、観客の拍手でかき消されていた。『週刊文春』以外のマスコミは、「見て見ぬふり」を決め込み、事態の隠ぺいに協力加担していた。

また、『なんなんなん?』の絵本では、兵隊さんにも聞いている。

すると「勝つためだ! えいっ!」と剣を振り回して答えた。兵隊さんは、敵と戦って勝つための訓練を受け、勝つために生きている。敵と戦って勝つために命を落とすことさえある。平和に暮らすために戦っているはずなのに、なかなか戦争は終わらない。開戦は容易でも、双方に引くに引けない理由があり、終戦は難しい。太平洋戦争でも、日本が降伏するのは困難で、かなり時間がかかった。

さらに、同絵本では、軍人さんにも聞いている。すると馬にまたがったまま「馬のためだ」と答えた。現代の馬は、戦車や戦闘機になるだろう。「馬のためだ」は、「戦車や戦闘機のためだ」ということになるだろう。兵隊さんの振り回した「剣」や軍人さんの「馬」は、戦争のための道具であり、道具のために生きるというのは、やはりおかしい。戦争のために「戦う道具」を使うはずなのに、「戦う道具」のために戦争をするというのは本末転倒であり、「死の商人」の論理である。(注4)

ウクライナ戦争もイスラエル対ハマス戦争もタテマエはともかく、実は武器の消費のために、本当は「死の商人」の利益のために行われているのではないだろうかという疑問が湧いてくる。

バイデン米政権は、2023年10月20日、武器生産拡大に向けて500億ドル(7.5兆円)の予算を議会に要請した。第2次大戦の民主主義国を支える「兵器庫」構想に回帰し、イスラエルやウクライナ支援を進めようとしている。(「日本経済新聞」2023年10月21日の記事参照)

米国が世界の「兵器庫」となるためには、兵器産業と「死の商人」をますます後押し、肥え太らせることとなる。「死の商人」の論理では、戦争をさらにエスカレートさせることで利益が増し続け、戦争を終わらせることは不利益になり、終戦からは、どんどん遠ざかり泥沼化することになる。

2023年7月29日「アーサー・ビナード作品」朗読+歌の会アンケート集計結果としては、参加38名中24名のアンケート回答で、<アーサー・ビナード訳の『なんなんなん?』のリレー朗読について、どう思いましたか?>との問いには<とても良かった⑦ 良かった⑭ どちらとも言えない⑩ 改善の余地あり⑩ 無記入③>であった。<とても良かった⑦ 良かった⑭>を合わせて24名中21名が支持してくれていることになる。

ビナード氏が、こんな根源的で、哲学的な問いを発する絵本も翻訳しているんだと知ってもらえる契機となれば、朗読会を企画し、実施する甲斐があると言ってもいいだろう。

## 5. 『どうして どうして?』



前項の『なんなんなん?』の兄弟本といってもいいのが、トニー・ミトン作の『どうして どうして?』(絵:ポール・ハワード/訳:アーサー・ビナード/小学館2009年8月)であろう。

小さな子どもの「どうして どうして?」という疑問に母親が、丁寧に答えていく絵本。子どもにとって自然や、身近な生活の中には、不思議なことがいっぱいある。「どうして太陽はあっちもこっちも明るくしちゃうの?」「どうして風は何んでもひゅうひゅうとかきまわすの?」などなど、知りたがりの子熊の素朴な疑問に母熊が一つひとつやさしく答えていく、小さな子どもの「ふしぎを感じる心」を育てる絵本である。

ビナード氏が、同書の翻訳を引き受けたのは、ご自身が子どものような素朴な疑問をそのままにせず、突き詰めて調べて明らかにしていく精神の持ち主であり、実践者だからであろう。

同書の子熊は「どうして どうして、森の小径は、くねくねしてるの、どうして?」と母熊に聞く。その答えは「それはね、まがりくねっていると、ひょうこり友だちに会えるからよ」である。

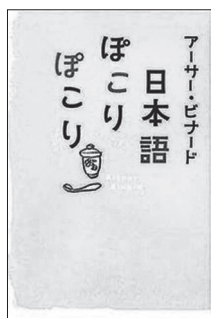
人生には、近道ばかりではなく、遠回りの紆余曲折した道があるが、それが困ったときに自分を助けてくれる友人・知人と出会うチャンスになることを教えてくれる。

「でも、どうして僕がここにいるのかなあ、どうして?」という子熊の哲学的問いに対する母熊の応答は「それはね、一生懸命どうしてかなあと考えるためなのよ」である。いいかげんに即答するのではなく、根源的な存在論の問いを大切にすることを教えてくれている。

これも前項の『なんなんなん?』と同じように森を親子で巡回しながら「どうして どうして?」と問答を繰り返す「反復質問物語」であり、兄弟絵本と言っていい所以である。

2023年は、日本各地で熊による被害が過去最多を記録し、ケガをしたり、亡くなられた方も多かった。また、ウクライナ戦争でもロシアの非人道的な民間人への攻撃など凶暴な「熊のプーチン」のイメージが出来上がり、熊が主人公の絵本は敬遠されるかもしれない。そのような中でもあきらめずに被害や戦争に対して『どうして どうして?』と問い続ける姿勢が必要であると思われる。

## 6. 『日本語ぼこりぼこり』



『日本語ぼこりぼこり』(アーサー・ビナード/著小学館)は、最初2005年3月に発行されたが、もともとは小学館国語辞書編集部ホームページ「Web日本語」に3年半にわたってビナード氏が書いたものが中心になっている。

同書のネット上の紹介は、次のように書かれている。

「日本語にあって英語にない便利な言葉とは?日本人が起こしがちな誤解のあれこれ、テレビのウソの見抜き方などなど、言葉につ

いての話題から文化・社会問題まで、ユニークな感性とユーモアたっぷりの文章でつづるエッセイ集です。言われてみればなぜ今まで気づかなかっただろう、この本はそんな発見を私たちに次々と与えてくれるはず。と、同時に、ふだん当たり前だと思っている物事を、今一度立ち止まって見直してみることの大切さに気づかされることでしょう」。

2023年2月に守先正氏のデザインで、上の右のような装幀で、文庫本化された。本文イラスト・扉題字は、ねっこかなこさんが担当している。巻末には、一青窈が「解説 あーさー天気になーれ」を6頁にわたって書いている。どうやら文庫本化のために、ビナード氏と一青窈氏とねっこかなこ氏の

『ハナミズキ』三人組がトリオを組んで当たったようだ。

最初の『日本語ぽこりぽこり』が2005年発行されてから、18年後の2023年に文庫本化されたということは、同書が「不易流行の書」であり、読者層の広がりを物語っていると言えるだろう。

イスラエルは2005年8月から9月にかけて、ガザ地区の入植者（約8000人）と軍をすべて撤退させ、1967年の第3次中東戦争以来続けてきたガザでのイスラエルのプレゼンスは終了した。ところが、2023年10月に、またもやパレスチナ・イスラエル戦争が勃発した。

『日本語ぽこりぽこり』の中で「メロンの立場」の章で紹介されている「戦争責任早わかり法」に注目したい。それは「地図を広げ、どこで、だれがやっているのか、それさえ見ればだいたい、戦争責任の所在はあきらかだ」というのだ。次の表1に示すように、朗読会で同書がリレー朗読された。

表1. 2023年8月11日の「アーサー・ビナードと共に朗読会+歌」プログラム内容

時間	8月11日のプログラム内容	担当・分担者
14:00	新作紙芝居「ハチミツの好きなキツネ」	N:岡村久美子 F:隅野洋子 B:田中範明
14:15	『ハナミズキ』のリレー朗読 ビナード（英語）	西村清美・荒井佳恵・島田令子・隅野洋子・ 岡村久美子・金崎清子・長井英子（日本語）
14:30	ビナード氏による『ハナミズキ』の解説	アーサー・ビナード
14:45	「ハナミズキ」「湖上」「ひまわり」「百万本のバラ」「最後だとわかっていたら」「死んだ男の残したものは」…	シャンソン歌手:松崎雅子さん ピアノ伴奏:脇淵陽子さん
15:00	休憩（サイン会）	トイレの案内
15:10	文芸山口（福田百合子特集号より短歌5首）	金崎清子
15:20	福田百合子5首の解説	福田百合子
15:30	絵本『なんなんなん?』のリレー朗読	金崎・原田・岡村・岩崎・西村・荒井・島田
15:45	『日本語ぽこりぽこり』のリレー朗読 「海を挟んでつれシオン」「メロンの立場」	島田令子・田中範明 西村清美・荒井佳恵
16:00	ビナード氏のお話	アーサー・ビナード
16:30	閉会	閉会后・サイン会・撤収作業

The Wall Street Journalによると、バイデン米政権は、3億2000万ドル（約480億円）相当の精密爆弾をイスラエルに供与することを計画している。米議会や政府当局者らの間では、イスラエル軍によるガザ地区での軍事作戦では、民間人の死者数が増加していることに懸念も高まっている。（2023年11月7日記事より）何故、遠く離れたイスラエルやウクライナに米政権は、多額の武器援助をするのか。

「メロンの立場」は、そもそも2004年4月の「Web日本語」（小学館）に書かれたものであるが、当時は、イラク戦争中でアメリカ国防省が、本国から遠く離れたイラクで戦争をしていた。

イラク戦争とは、アメリカ合衆国が主体となり、2003年3月20日からイギリス、オーストラリアと、工兵部隊を派遣したポーランド等が加わる有志連合によって、イラク武装解除問題での、イラクによる大量破壊兵器保持における武装解除進展義務違反を理由とする、『イラクの自由作戦』の名の下にバアス党政権下のイラクへ侵攻がなされたことで始まった軍事介入である。（イラク戦争 - Wikipediaより）



イラク戦争の目的は、イラクの自由と民主主義のためというのだが、ビナード氏の祖父は「そんなものは、ショーウィンドーの飾りに過ぎない。戦争っていうのは、金儲けのためにやるに決まっている。思想なんかあとからくつつくんだ」と言っている。

また、ビナード氏のインドのタミル語の先生は、「包丁がメロンの上に落ちてても、メロンが包丁の上に落ちてても切られるのはメロンだ」という諺を教えてくれたそうだ。この場合のメロンは、一般市民で、現在のパレスチナ・イスラエル戦争でも、ウクライナ戦争でも、武器によって殺され、傷つくのは、兵士だけでなく、無抵抗の子どもや老人、女性など民間人が大多数にのぼる。

武器を使用し続けることで、憎しみと悲しみの連鎖は繰り返されるが、平和はやってこない。

一青窈が「解説」に「もし私が魔法使いなら、武器を持って戦争している人たちにくしゃみの同時多発を起こし、戦車も操縦できないし、ミサイル発射もできなくして、ただひたすらに己の口を押えてもらおう。最終的にあたたかい温泉にみんなで浸かってもらって、『いい湯だな、センソウやっぱやめた』と言ってもらえたら万々歳だ」と述べている。

さらに一青窈は、絵本についても「後世に残すべき本質を鷲掴みにし、長い年月をかけて書かれた絵本は着実に私たちの血となり肉となる」と記している。

## 7. 『キンコンカン戦争』



前項の一青窈の「くしゃみ同時多発作戦」の発想で思い出すのが、イタリア人のジャンニ・ロダーリ作『キンコンカン戦争』（講談社、2010）である。絵は、ペフが描き、ビナード氏が翻訳している。

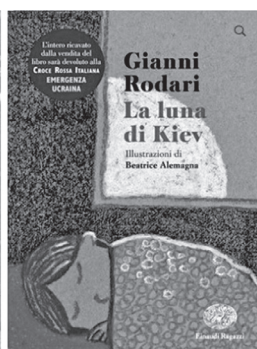
あらすじは、戦争ばかりしているある国は、とうとう大砲や武器に使う金属がなくなった。そこで軍部の大将は国中の時計塔や教会をこわして、「武器の材料にしろ！」と命令を出した。そして、いままでにないおおきな大砲をつくったが、おおきな大砲は「キンコンカン」と鐘を鳴らすような音をたてた。兵士たちは戦争する気力を失くし、大将は逃げ出した。（詳細は、林

2020参照）

戦争の愚かさを子どもに伝えるユーモア溢れる絵本であるが、現在のパレスチナ・イスラエル戦争でも、ウクライナ戦争でも戦争当事者は、笑えないかもしれない。

同書は、「絵本スペース」（<https://ehon.space/>）というサイトで「戦争や平和にまつわる絵本おすすめ人気15選！」の一冊に選ばれている。

## 8. 『キーウの月』



前項のジャンニ・ロダーリといえば、イタリアの国民的作家であるが、同氏の『キーウの月』という絵本が、ベアトリーチェ・アレマーニャの絵、内田洋子訳で、2022年8月4日に講談社から一詩一冊本で出版された。絵本の帯には「今、わたしたちが眺めている月を、ウクライナの子もたちも見上げています」「イタリア発！ウクライナ救援のための緊急出版」と書かれている。

（左：日本語版表紙、右：イタリア語版表紙）

また、「この絵本の売り上げによる利益はすべて、イタリア赤十字およびセーブ・ザ・チルドレン

に寄付されます」と記されている。ジャンニ・ロダーリ（1920-1980）は、1960年に「キーウの月」という詩を発表したが、生誕100年を記念して、2020年にイタリア語版が出版されたようだ。

ロダーリの作品としては、『チポリーノの冒険』『青（あお）矢号（やごう）おもちゃの夜行列車』『うそつき国のジェルソミーノ』『空にうかんだ大きなケーキ』『羊飼いの指輪 ファンタジーの練習帳』『猫とともに去りぬ』『ランベルト男爵は二度生きる サン・ジュリオ島の奇想天外な物語』『キンコンカン戦争』『兵士のハーモニカ ロダーリ童話集』（関口英子訳、岩波少年文庫、2012）などがある。内田洋子氏は、ロダーリ作品『パパの電話を待ちながら』『緑の髪のパオリーノ』『クジオのさかな会計士』（すべて講談社）の翻訳を手がけている。

## 9. これまでのまとめ

以上、2023年の朗読会で扱ったビナード氏の作品を中心に検討してきたが、これまでの朗読会とビナード氏の作品についての研究を次の表2にまとめて示しておきたい。（注5）

表2. アーサー・ビナード作品についての研究（2020年～2023年）

著／年	表題 —副題—	媒体名	発行元	作品名
林伸一 2020 令和2	アーサー・ビナードについての研究 —絵本の朗読と図書館の役割を考える—	山口大学文学会志 第70巻 pp. 49-69	山口大学 文学会	『さがしています』『ここが家だ—ベンチャーの第五福竜丸』『キンコンカン戦争』『この本をかくして』
林伸一 2021a 令和3	アーサー・ビナードと谷本清平和賞 —絵本と紙芝居の果たす役割を考える—	山口大学文学会志 第71巻 pp. 57-74	山口大学 文学会	絵本『父さんがかえる日まで』『そもそもオリンピック』『ドームがたり』 紙芝居『ちっちゃいこえ』
林伸一 2021b 令和3	アーサー・ビナードの翻訳絵本 —『父さんがかえる日まで』論—	異文化研究 第15号 pp. 12-31	山口大学 人文学部 異文化交流研究施設	絵本『父さんがかえる日まで』『まどのそとのそのまたむこう』（脇明子訳）『OUTSIDE OVER THERE』（モーリス・センダックの原作）
林伸一 2022 令和4	アーサー・ビナードを囲む朗読+お話会 —コロナ禍の開催と図書館の運営について—	山口大学文学会志 第72巻 pp. 51-74	山口大学 文学会	絵本『そもそもオリンピック』『はじまりの日』『すばらしいみんな』『Heartbloom Hill（花さき山）』『雨ニモマケズRain Won't』『ウトウとクイナPuffin and Rail』
林伸一 2023 令和5	アーサー・ビナードと平和を考える朗読会 —「ぼくとり」「やまなし」「イソップ」について—	山口大学文学会志 第73巻 pp. 23-38	山口大学 文学会	紙芝居『ちっちゃいこえ』 絵本『ぼくとり』『やまなしMountain Stream』『世界のむかしのおはなし・カエルのくにつたわるおはなし ポチャッ ポチョッ イソップ』

## 10. 今後の課題

ビナード氏の作品は、オリジナルの著作物（詩集・エッセイ集・絵本）だけでなく翻訳絵本・紙芝居などを含めて、1998年以来80作を超えている。今後の課題としては、その作品群をジャンル別に分類し、整理していきたい。そこからさらに明らかに見えてくる共通要素や流れ、筋などもあると期待される。一青窈が絵本は「後世に残すべき本質を驚掴みにし、長い年月をかけて書かれた」としているが、その絵本が「後世に残すべき本質」とはなんなんなんなのかを明らかにしたい。また、絵本の中身が「着実に私たちの血となり肉となる」ように今後もさらに朗読会を続けていきたい。



☞8月11日「アーサー・ビナードと共に朗読会+歌」のゲスト（福田百合子先生、松崎雅子さん、脇淵陽子さん）と「山口の朗読屋さん」スタッフと准レギュラーメンバー（小郡地域交流センター2階大ホールにて）

（注1）2001年9月11日、アメリカで起きた同時多発テロの後、世界中に配信されたMarek Norma Cornettの詩の本として『最後だとわかっていたら』（ノーマ コーネット マレック作/佐川 睦訳/サンクチュアリ・パブリッシング 2007）がある。一つの詩が一冊の本になっているので、一詩一冊の絵本といってもいいし、同詩には、曲がつけられて歌われているので、一曲一冊の本でもある。

ちなみに一詩一冊の絵本としては、『雨ニモマケズRain Won't』（宮沢賢治作/アーサー・ビナード英訳/山村浩二・絵/今人舎2013）『雨ニモマケズ（宮沢賢治の絵本シリーズ）』（宮沢賢治作/柚木沙弥郎・絵/mikihouse2017）/『サーカス（声にだすことばえほん）』（中原中也・原作/齋藤孝（編集）/しむらあつこ・絵/ほるぷ出版 2008）などがある。

（注2）老木のハナミズキを「満開に咲かせると、養分を開花に奪われすぎて、枯死する確率が増します。よって、蕾の時期にできるだけその蕾を摘んで、樹勢の維持に努めています」との記述は、絵本『ハナミズキ』の「薄紅色の可愛い君のね/果てない夢がちゃんと/終わりますように/君と好きな人が/百年つづきますように」という一青窈の詩と呼応するものがあるように思われる。つまり、ハナミズキの木が天寿を全うするためには、蕾の時期にできるだけ自分の蕾を摘んでもらってでも「君と好きな木」が長生きできますようにという祈りが込められているのではないだろうか。そう考えると「僕の我慢（開花したいという欲望の自制）がいつか実を結び…君と好きな人（木）が百年つづきますように」という意味に読めるであろう。ねっこかなこ氏の絵もそのように見ることができる。

（注3）「反復質問法」は、構成的グループ・エンカウンターエクササイズの一つとしても用いられている。詳しくは、『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集・Part 2』（林伸一ほか編集・図書文化社、2001）の中に「あなたにインタビュー」として反復質問法を使っ

たエクササイズが紹介されている。例えば、「今いちばん欲しいものは何ですか」という問いを繰り返すなど。

『なんなんなん?』と『どうしてどうして?』は、2023年度の山口短期大学の韓国人・ベトナム人など外国人留学生や日本人のための「比較文化論概説」のテキストとして、使用された。単に読み込む教材としてだけでなく、絵本を通して対話を生み出す教材として効果的であると思われた。

(注4) 絵本の中では「兵隊さん」「軍人」となっているが、日本では憲法上軍隊はないことになっているので、「兵隊さん」「軍人」という言い方は、戦前・戦中の用語となる。現在の日本では、専守防衛のための自衛隊が存在しているため、「自衛隊さん」「自衛官」という言い方になる。さらに、日本での「防衛装備品」は、「武器」のことで、「反撃能力」は「敵基地攻撃能力」のことであるなど、言葉でごまかされないためには、意味が分かるように対照表を作っておかなければならない。

「死の商人」に関しては、岩波新書で岡倉古志郎著『死の商人』が1951年1月に発行されている。その後、同書改訂版が、1962年に出されている。岡倉古志郎著『日本の死の商人』も1952年に要書房から発行されている。そのほか床井雅美著『恐るべき武器と死の商人—謎に包まれた世界の兵器産業界の全貌—』が青年書館から1983年に全317頁の単行本で発行されている。ドイツの戦車レオパルドや対空戦車ゲパルトのことなどが紹介されているが、それは現在のウクライナ戦争でも使われている。(詳しくは、黒井文太郎監修『13歳からのウクライナ戦争・150日新聞』宝島社2022参照)

(注5) 表2に示した研究は、山口大学附属図書館のサイト ([https://opac.lib.yamaguchi-u.ac.jp/opac/opac\\_search/](https://opac.lib.yamaguchi-u.ac.jp/opac/opac_search/)) または、CiNiiで検索すれば、全文が見られる。

## 【参考資料】

2023年7月21日付の山口新聞に下記の取材記事が掲載された。

**アーサー・ビナード作品など  
今月29日と8月11日、山口で朗読会**

山口市内を中心に活動する「山口の朗読屋さん」は、29日と8月11日に同市内の2会場で詩人・絵本作家アーサー・ビナードさんの作品の朗読会を開く。

『ハナミズキ』『日本語ぼろぼろ』などをリレー形式で朗読するほか、山口の朗読屋さんが企画した新作紙芝居などを読む。8月11日はビナードさんも来場する。

同市大殿大路の大殿地域交流センターで練習会があり、山口の朗読屋さんの会員ら11人が参加した。リレー朗読などを担当する金崎清子さん(1)は「自分の感情を入れ過ぎるのではな

く、作者の心をどう伝えるか考えながら取り組みたい」と意欲を示した。

会場は29日が同センター

1、8月11日が同市小郡下郷の小郡地域交流センターで、両日とも予約を受け付けている。参加無料。申し込み、問い合わせは林さん(電話090・6415・8203)へ。

(末広諒子)



朗読の練習をする山口の朗読屋さんの会員ら＝山口市大殿大路

記事中の写真は、左から原田宏美さん、岡村久美子さん、田中範明さん。

ウクライナ民話の紙芝居『ハチミツの好きなキツネ』(西村茂雅・絵／山口の朗読屋さん・企画／さとうみちこ監修、2023)年制作)を練習しているところ。

## 【参考文献】

- アーサー・ビナード著（2005）『日本語ほこりほこり』小学館（文庫本2023、守先正デザイン装幀／本文イラスト・扉題字ねっこかなこ／一青窈・解説「あーさー天気になーれ」付き、全272頁）
- 岡倉古志郎著（1951、改訂版1962）『死の商人』岩波新書（全195頁）
- 岡倉古志郎著（1952）『日本の死の商人』要書房（全171頁）
- 黒井文太郎監修（2022）『13歳からのウクライナ戦争・150日新聞』宝島社（全176頁）
- 小嶋希恵（2015）『タカラヅカ式 美しい人の作法の基本』日本能率協会マネジメントセンター（全208頁）
- ジャンニ・ロダリー作／ペフ絵／アーサー・ビナード訳（2010）『キンコンカン戦争』講談社（全28頁）
- ジャンニ・ロダリー作／関口英子訳（2012）『兵士のハーモニカ ロダリー童話集』岩波少年文庫（全272頁）
- ジャンニ・ロダリー作／ベアトリーチェ・アレマーニャ絵／内田洋子訳（2022）『キーウの月』講談社（全26頁）
- 床井雅美著（1983）『恐るべき武器と死の商人―謎に包まれた世界の兵器産業界の全貌―』青年書館（全317頁）
- トニー・ミトン作／ポール・ハワード絵／アーサー・ビナード訳（2009）『どうしてどうして?』小学館（全28頁）
- 中原中也・原作／齋藤孝・編集／にしむら あつこ・絵（2008）『サーカス（声にだすことばえほん）』ほるぷ出版（全32頁）
- ノーマ・コーネット・マレック作／佐川 睦訳（2007）『最後だとわかっていたなら』サンクチュアリ・パブリッシング（全56頁）
- 林伸一・飯野哲郎ほか編集（2001）「あなたにインタビュー」『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集・Part 2』図書文化社（全176頁）
- 一青窈作／アーサー・ビナード英訳／ねっこかなこ絵（2022）『ハナミズキA Hundred Years』今人舎（全36頁）
- マック・バーネット作／カーソン・エリス絵／アーサー・ビナード訳（2022）『なんなんなん?』小学館（全40頁）
- 宮沢賢治作／アーサー・ビナード英訳／山村浩二・絵（2013）『雨ニモマケズRain Won't』今人舎（全32頁）
- 宮沢賢治作／柚木 沙弥郎・絵（2017）『雨ニモマケズ（宮沢賢治の絵本シリーズ）』mikihouse（全40頁）

## 【謝辞】

本稿の作成過程でいろいろとアドバイスをいただいたり、情報提供していただいた山口の朗読屋さんのメンバーにこの場を借りて、心から感謝したい。

原田宏美さんと山口智子さんが、本稿で使用した写真を提供してくださったことに深く感謝の意を表したい。また、山口智子さんには、「こどもと本ジョイントネット21」のブログ上で、山口の朗読屋さん主催の2023年7月29日「アーサー・ビナード作品の朗読+歌の会」及び8月11日「アーサー・ビナードと共に朗読会+歌」の告知を丁寧にしていただいたことに心より感謝したい。